

東京大学になぜ行くのか。

●28年度国立86大学「運営費交付金」一覧 (当初予算配分額:高額順/単位:千円) (表2)

順位	大学	配分額	順位	大学	配分額	順位	大学	配分額
1	東京大	80,456,992	30	鳥取大	10,791,418	59	電気通信大	4,964,294
2	京都大	54,831,754	31	島根大	10,685,324	60	京都工芸繊維大	4,874,470
3	東北大	48,603,506	32	佐賀大	10,558,207	61	愛知教育大	4,845,313
4	大阪大	43,679,737	33	弘前大	10,549,174	62	東京芸術大	4,808,236
5	九州大	41,685,921	34	香川大	10,440,557	63	名古屋工業大	4,649,766
6	筑波大	40,654,108	35	山梨大	9,763,518	64	お茶の水女子大	4,468,672
7	北海道大	36,229,003	36	高知大	9,657,509	65	和歌山大	3,807,925
8	名古屋大	31,622,196	37	秋田大	9,506,073	66	京都教育大	3,729,131
9	広島大	24,888,297	38	静岡大	9,411,735	67	豊橋技術科学大	3,703,047
10	東京工業大	21,355,029	39	福井大	9,357,808	68	長岡技術科学大	3,571,801
11	神戸大	20,562,289	40	大分大	9,285,804	69	福島大	3,516,510
12	岡山大	18,131,526	41	宮崎大	9,227,766	70	兵庫教育大	3,475,051
13	千葉大	17,929,151	42	東京学芸大	8,010,166	71	奈良女子大	3,434,365
14	長崎大	16,081,703	43	横浜国立大	7,853,464	72	鳴門教育大	3,322,447
15	新潟大	16,041,382	44	岩手大	6,782,965	73	福岡教育大	3,183,224
16	金沢大	15,713,314	45	北海道教育大	6,752,240	74	上越教育大	3,053,506
17	鹿児島大	15,604,740	46	茨城大	6,518,384	75	東京外国語大	3,013,390
18	熊本大	14,878,625	47	東京農工大	6,150,456	76	追分大	3,002,004
19	信州大	13,711,951	48	埼玉大	6,030,809	77	富城教育大	2,717,649
20	東京医科歯科大	13,238,001	49	大阪教育大	5,928,441	78	徳島産大	2,699,227
21	富山大	13,122,214	50	奈良先端科学技術大学院大	5,925,354	79	宮城工業大	2,614,417
22	徳島大	12,547,832	51	浜松医科大	5,710,757	80	奈良教育大	2,433,236
23	愛媛大	12,442,196	52	一橋大	5,657,398	81	筑波技術大	2,350,364
24	琉球大	12,177,975	53	宇都宮大	5,643,710	82	北見工業大	2,252,493
25	山口大	11,917,677	54	滋賀医科大	5,534,055	83	政大研究大学院大	2,140,933
26	群馬大	11,631,391	55	東京海洋大	5,453,617	84	総合研究大学院大	1,783,843
27	三重大	11,627,270	56	北陸先端科学技術大学院大	5,248,030	85	鹿屋体育大	1,436,975
28	岐阜大	11,350,792	57	旭川医科大	5,187,432	86	小樽商科大	1,231,973
29	山形大	10,923,675	58	九州工業大	5,161,292			

●28年度国立大学法人86大学運営費交付金の占有率状況 (表4)



文部科学省の平成 28 年度の予算状況です。

800億を超える東京大、550億の京都大、450億の東北大、以下400億を超えるのは、大阪大、九州大、筑波大であります。北海道大と名古屋大、広島大、東京工業大がその後に続きます。ここまでが、ベスト10となります。10位の東京工業大と1位の予算比率は、約4分の一となっています。

東京大学にはこれほどまでの予算が配置されていることから、この予算を持って、国家を支える人材育成を行っているという位置づけができると思います。

よって、そのことにふさわしい人材が東京大学を目指すべきであります。以前とは大きく異なることは、地方からの入学が難しくなっている現状が指摘されております。

幼少期からの学習塾の影響であるとか、小中高一貫教育の影響であるとか、これまで地方から人材が首都圏に一極集中した結果、その子息が首都圏で学習環境を確保していることなどによることが、その原因に挙げられております。

しかし、本当にそうでしょうか。そのようなこともあるけれども、地方における教育が衰退しているとは認められることではありません。

地方出身は地方出身としての矜持と地方故の特異点や特徴があると考えます。そのことにより、今後、どのように磐城に於いて人材を育成していくことが求められるのか考えていく必要があります。

決して、東大だけが大学ではなく、公立だけが大学ではありません。そこでどのような出会いがあるのか、どのようなつながりを構築するのかが本当に大切であると私は思います。

それでも、東京大学に磐城高校生が一定程度在学することがいわきにとっても磐城高校にとっても重要であることは間違いないことでもあります。

その道筋をきちんとつけていきたいと心から考えています。